



天気図 県内景気

現在の景気 生産活動 個人消費 民間設備投資 住宅投資 公共投資 雇用情勢 3か月後の景気

凡例 晴れ 晴れ一時曇り 曇り 曇り一時雨 雨

前月比 上昇・好転 横ばい 下降・悪化

引き続き弱含みの状態にあるものの、 緩やかに上向き始めている

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数でみると、原指数、季節調整済指数ともにマイナス幅は縮小したものの2か月連続のマイナスとなり、弱含みで推移している。この結果、季節調整済指数の3か月移動平均値は100.7、前月比-0.4%と、4か月ぶりのマイナスとなった。また、出荷は3か月連続のマイナスで、在庫は11か月連続かつ二ケタの大幅プラスとなっている。

需要面では、大型店売上高については飲食料品がけん引しているものの、他の品目では消費増税の影響が長引いているため、全体に伸び率は鈍化ないしは微増にとどまり、総じて伸び悩んでいる。また、乗用車の新車登録台数は7か月連続かつ大幅のマイナスとなり、公共工事の請負金額も3か月連続のマイナスとなっている。

一方、民間設備投資の指標である民間非居住用建築着工床面積は鉱工業用とサービス業用が大きく伸び2か月ぶりの大幅プラスとなり、また新設住宅着工戸数は分譲住宅が大幅のマイナスとなったものの、持家と貸家がプラスとなったため、全体では7か月ぶりに前年を上回った。

このような中、雇用情勢をみると、医療、福祉と卸売・小売業の新規求人数が大きく伸びたため新規求人倍率は前月に続き大きく上昇し、有効求人倍率も8か月ぶりの1倍台となった。また製造業の所定外労働時間指数は2か月ぶりのプラスとなった。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は在庫調整が長引き、全体に弱含みの状態で推移し、需要面では駆け込み需

要の反動減や消費増税の悪影響が根深いため伸び悩んでいるものがあるものの、一部で上向きのものがみられる。したがって県内景気の現状は、全体的には反動減や消費増税の悪影響が残り弱含みの状態にあるものの、緩やかに上向き始めているものと考えられる。

今後の動向 県内製造業の生産活動については、消費増税の悪影響は根深いながら在庫調整もようやく終盤に入り、景気の緩やかな回復基調を受けて全体的に底離れから緩やかな回復に向かうものと思われる。

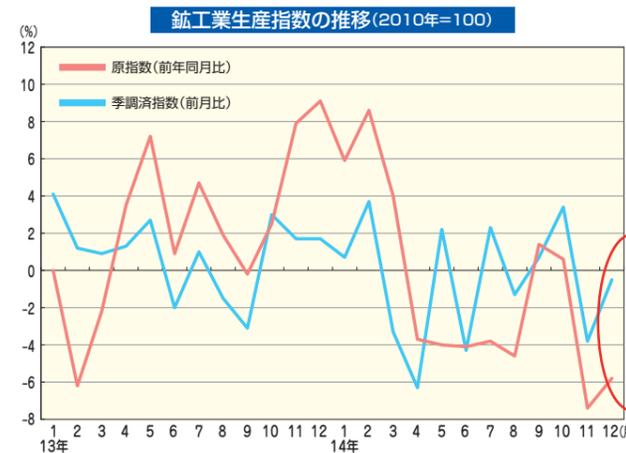
需要面では、個人消費については円安に伴う物価上昇と消費増税などのマイナス要因により消費マインドは引き続き厳しいため、乗用車、家電品などの耐久消費財や高級品の回復感を引き続き乏しいとみられるものの、食料品や日用品などの最寄り品を中心に底堅く推移すると考えられる。また、新設住宅着工や民間設備投資などの投資関連需要は慎重さが残るものの、駆け込み需要の反動減が和らぎ徐々に動きが出てくると思われる。

したがって今後の県内景気は、円安による消費財価格、原材料価格等の高騰や人手不足等による人件費の上昇などの企業経営面での懸念材料はあるが、①家計収入の回復期待、②消費増税の悪影響の緩和、③原油安に伴う燃料費の削減や石油製品の価格低下がもたらす企業、家計両面でのマインドの好転などを考えると、現状の足踏み状態から緩やかな回復に向けて動き出すものと考えられる。

「鉱工業生産指数」は 両指数ともに2か月連続のマイナス

2014年12月の県内製造業の生産状況を見ると、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は95.5、前年同月比-5.8%、「季節調整済指数」は99.1、前月比-0.5%で、ともに2か月連続のマイナスとなっている。ただマイナス幅は縮小した。この結果、季節調整済指数の3か月移動平均値(11月)は100.7、前月比-0.4%と、4か月ぶりのマイナスとなった。業種別(中分類)に季節調整済指数の水準をみると、「食料品」や「その他」などは高水準で推移しているものの、「鉄鋼」や「窯業・土石製品」「化学」などは低い。また、前月に比べると「金属製品」や「輸送機械」「食料品」などはプラスとなったが、「電気機械」や「化学」「繊維」などはマイナス。

生産状況の先行きをあらわす「出荷指数」と「在庫指数(製品在庫)」を前年比でみると、出荷は3か月連続のマイナスで(原指数99.5、同月比-5.8%)、在庫は11か月連続かつ二ケタの大幅プラスとなっている(同113.5、同+11.9%)。



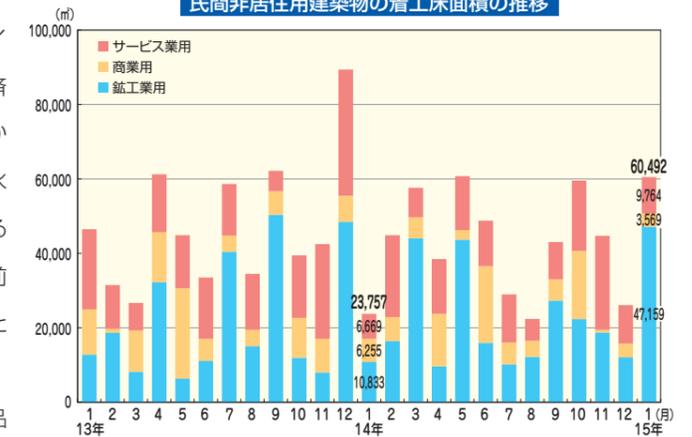
「民間非居住用建築着工床面積」は 2か月ぶりの大幅プラス

民間設備投資と関連の深い「民間非居住用建築着工床面積」(2015年1月)は60,492㎡、前年同月比+154.6%で、2か月ぶりの大幅プラスとなった。業種別にみると、「商業用」は3か月連続で前年を大きく下回ったが、「鉱工業用」が2か月ぶりの大幅プラス、「サービス業用」も3か月ぶりのプラスとなった(「商業用」:3,569㎡、同-42.9%、「鉱工業用」:47,159㎡、同+335.3%、「サービス業用」:9,764㎡、同+46.4%)。

また、1月のトラック新車登録台数をみると、「小型四輪トラック

(4ナンバー車)」は2か月ぶりに前年を下回ったものの(154台、同-1.9%)、「普通トラック(1ナンバー車)」が6か月連続かつ大幅のプラスとなったため(104台、同+126.1%)、2車種合計では3か月連続かつ大幅のプラスとなった(258台、同+27.1%)。

民間非居住用建築物の着工床面積の推移



「新設住宅着工戸数」は 7か月ぶりのプラス

2015年1月の「新設住宅着工戸数」は818戸、前年同月比+8.6%で、7か月ぶりに前年を上回った。長引いていた駆け込み需要の反動減の影響が終息したかどうか、今後の動向が注目される。利用関係別でみると、「持家」は372戸、同+6.0%(大津市92戸など)で13か月ぶり、「貸家」も328戸、同+82.2%(大津市92戸、彦根市58戸など)で5か月ぶりのそれぞれプラスとなった。一方、「分譲住宅」は81戸、同-62.8%(大津市31戸など)で前月に続き大幅のマイナスとなった。分譲住宅の内訳をみると、「一戸建て」は7か月連続で前年を下回り(81戸、前年差-60戸)、「分譲マンション」も3か月ぶりに申請がなかった(0戸、同-77戸)。なお、「給与住宅」は37戸(湖南市35戸など)。

新設住宅着工戸数の推移(前年同月比)

